

～発達ハビリテーション 子どもの作業療法「遊ぶ・学ぶ・くらす」～

リハビリテーション室 主任 作業療法士 矢野 俊恵



当院作業療法では、脳神経外科や整形外科だけでなく小児科からの処方、言語発達遅滞・自閉症スペクトラム障害・発達障害など、1歳半から小学生まで、幅広い年齢の子どもたちと日々遊びながら向き合っています（下図）。

「ハビリテーション」は、ラテン語のhabilisが語源となっています。re(再び)+habilis(適した)が語源となる「リハビリテーション」が回復を目的とするのに対し、持っている機能や能力を生かして、さらに発達させる治療です。

子どもの作業療法は「遊び」「学ぶ」

の領域が中心になります。体を動かす、道具をうまく使って生活動作を自立する、自分の気持ちを表現する、友達と協力する、などです。

子ども一人ひとりに合わせた活動でアプローチし、成功体験を積み重ねることで自己肯定感を高め、総合的な発達を促していきます。その中でできるようになることを増やし、将来、人と関わりながら自分自身で考え、自立して「くらす」ことを目指したいと思っています。

当院では、生活で使用するものや手作りの訓練器具を取り入れ、興味を引

き出すように心がけています。写真の遊具や補助具などは実際に使用しているものです。

子どもが初めて「先生」と呼ぶ場面に立ち会えるなど、子どもたちの育っていく姿を目の当たりにでき、作業療法士として貴重な経験をしています。生まれ持った特性に向き合うことは大変な思いもあると思いますが、親御さんとそのプロセスを共有することで、少しでもより良い社会生活が送れるよう、生きるヒントがひとつでも多く習得できるよう、共に歩んでまいります。



手作り家電



内装にもこだわった
タルト電車



食事の際の自助具



箸動作練習用のお魚



ポディイメージ評価
に使用するからだパズル

ボランティア「白鷺」通信

医療社会活動室長 井上 より子

図書室司書 松長 聡美

緑と空と動物 2023 ふれあいフェスタ

10月24日・11月14日、河原アイペットワールド専門学校のご協力により、開催しました。

「癒される」と仰る方が多い中、小さなお子さんにとっては、初めて犬猫に触れる貴重な体験の場でもあるようです。



学生の皆さん、いつもありがとうございます！



ハードル技を披露

@中庭テラス

えいらい USED BOOK フェス

毎年10月27日から11月9日の2週間は「読書週間」として、全国で読書に関する様々なイベントが行われます。当院でも、10月31日・11月1日、ボランティア白鷺と職員図書室がコラボレーションした読書週間イベントを、今年初めて開催しました。

ボランティアさんと職員から、古本と、ある物の材料（端切れやリボンなど）を集めました。それらの材料は、ボランティアさんの手により、とても素敵なブックカバー・しおりに変身！古本約650冊とともに、患者さんへ無償で差し上げました。



天高く秋らしい天候の下、ボランティアさんによる絵本と紙芝居の「青空おはなし会」。患者さん参加型で盛り上がりました。

たくさんの患者さんで大賑わい、特に絵本・児童書が大人気！本を選びながら会話が弾む親子、読みたかったマンガを偶然にも全巻ゲットしてご満悦の方、中庭テラスでゆっくり読書を楽しむ方。それぞれの形で本に親しんだ、素晴らしいひと時でした。



青空おはなし会